

円相場は一時1米ドル160円台のち154円台と値動きの荒い展開に

- 円安米ドル高が加速し、4月29日に一時1米ドル160円台に
- その後同日に円は154円台へ急伸、円買い介入実施か
- 当面の円相場は米景気・インフレ指標およびFOMC次第か

■ 4月29日の円相場は値動きの荒い展開に

4月29日、円相場は一時1米ドル160円台を付けるなど円安が進みました。同月26日の日銀金融政策決定会合後の記者会見で、植田総裁が最近の円安について、基調的なインフレ率への影響は大きくないと発言し、円安をけん制する姿勢が見られなかった点が影響した模様です。

その後一転、円は154円台に急騰、本邦当局が円買い介入を行った可能性があります。神田財務官は介入の有無についてノーコメントとしましたが（4月26日～5月29日の介入実績額は5月31日公表）、市場に緊張が残るなか、日本時間30日10時時点で156円台で推移しています。

■ 本邦当局のけん制は円安阻止に不十分か

神田財務官は激しい異常ともいえる変動が国民経済にもたらす悪影響は看過しがたい、また、24時間365日対応可能と発言しています。目先は介入警戒感が意識されやすく、円安の歯止めに一定の効果はあるとみられます。

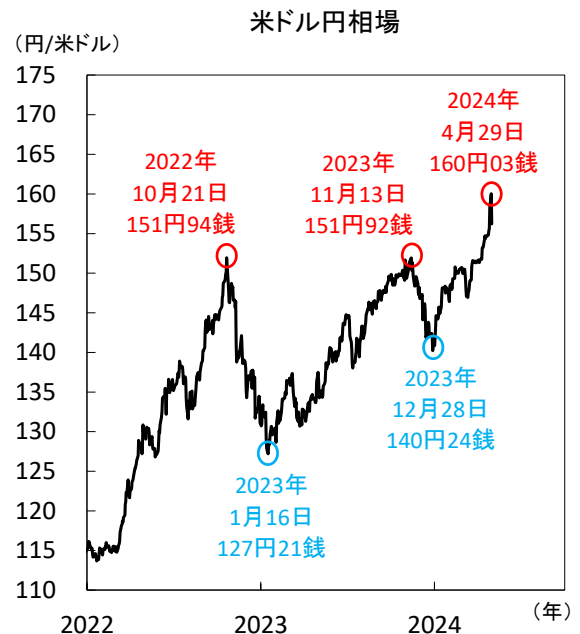
当局は2022年、円安対応で円買い介入を3度実施（9月22日、10月21・24日）、当時の円相場は10月21日安値151円94銭（以下、LSEG集計のザラバ）の後に円高に反転、2023年1月16日の高値127円21銭まで円高基調が続きましたが、同年11月13日安値151円92銭まで円安が再進行、2024年に入り円安に拍車がかかっています（図1）。円安の主因が、日米の金融政策を含む金利先高観の差にある以上、円安米ドル高一服となるかは予断を許しません。

■ 米ドル円相場の行方は米経済とFOMC次第

結局のところ、長めの目線で見た米ドル円相場の方向性は、米景気・物価への見方と、それらを踏まえた米連邦公開市場委員会（FOMC）の動きに左右されそうです。

日本では今秋の日銀追加利上げが織り込まれ金利が上昇も、米国では良好な景気と粘着質なインフレ持続の見方に加え、FOMC関係者から利下げ慎重論が相次ぎ、年内利下げ期待がしぼむなか、金利が日本以上に上昇しています。米経済・金融政策見通しが変わらない間は、日米金利差の明確な縮小は見込みにくく、円高米ドル安への反転かつ定着は容易ではないとみます（図2）。（瀧澤）

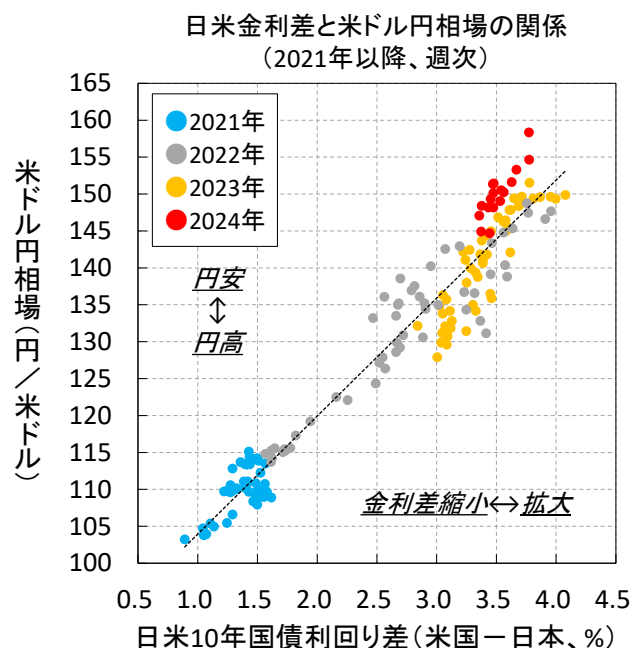
【図1】 2024年に入り円安が再加速、一時1米ドル160円ラインを突破



注) 凡例は節目となったザラバの値（赤は円安値、青は円高値）。直近値は2024年4月29日。

出所) LSEGより当社経済調査室作成

【図2】 米利下げ観測後退で金利が高止まる間、円安米ドル高圧力が残りやすい展開か



注) 点線は単回帰直線。対象期間は2021年1月1日～2024年4月26日（週次）。

出所) LSEGより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会